



米沢有為会 仙台支部だより

第 2 号

平成20年10月18日

発行者

(社)米沢有為会仙台支部

支部長 中條 仁

仙台市青葉区二丁目6-13-402

TEL 022-215-0236

米沢有為会仙台支部総会報告

平成20年度米沢有為会仙台支部通常総会が6月7日(土) ホテルユニバース仙台において開催されました。出席者数は会員20名と学生会員3名の計23名でした。

初めに中條仁仙台支部長より挨拶があり、事務局より平成19年度収支決算及び監査報告並びに事業・業務報告がなされ、その後平成20年度収支予算(案)、事業計画(案)、支部役員補強人事(案)が提案され、承認されました。

本年度の重点的な事業内容として、費用予算一千万円に上る仙台興讓館寮の大規模改修計画が挙げられます。また支部活動の活性化ということで、支部だよりの発刊(4/20創刊号発行)と会員交流の企画、同好の土による趣味の会の結成などが提案なされました。支部だよりは年複数回発行予定です。是非、趣味の会やおもしろどころ探訪

等、会員の交流を促進し、輪を広げるツールとなる企画を盛り込む努力をするつもりです。投稿(CMでもかまいません)を歓迎します。
総会の後、懇親会が開かれ出席者の自己紹介・ショートスピーチなどでごやかに懇談が行われました。(丁)

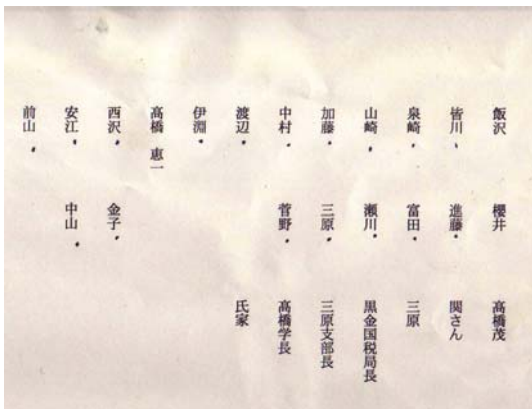
戦後仙台興讓館の創め

瀬川 耕

戦災で焼けて改めて興讓館が建設され復活したのは昭和23年のことである。その頃のことを思い出すのは可成り難しい年齢になった。約60年も経過しているからである。当時のことを遺しておくことは大切なことと思ひ直し綴ることにした。

有為会関係のものか定かでないが、現在の今井眼科の祖父の先生が大正9年だったかに興讓館の館長をされたいたのを覚えていた。

遇々、学生時代のアルバムを取り出したらこの写真が出てきた。確か、有為会の遙拝式それも2回目だから昭和24年4月29日に撮影されたものと思ふ。これに写されている方は数人持つている筈である。



ともあれ、この1年前に再建されて入寮したのだから昭和23年3月に入寮し4月1日仙台興譲館が戦後始まった。

総体的には有為会の事業であるが、我々は学生であり全体的なことは解らなかつた。仙台興譲館の戦後の創めとして捉えることが妥当と考えられる。

有為会仙台支部長は時計の三原さんであり、世話役は当時東北興業(国策会社?)に勤められていた関虎雄さんであった。建てられたばかりでありなにかと不備や金のかかることはかりあつて三原さんにはその都度御邪魔して御願ひし、関さんには困つたことは相談して解決した。

寮生活は戦後貧しい時代であるから、最初1年は五升の米を持っていたように思ふ。戦後3、4年は米を出さなければ下宿は出来なかつた時代である。食費を入れた寮費は一月1500円だつたか1700円だつたように思ふが会計は菅野君だつたので、彼に聞けば確かなことは分かる。今から考えてもよくやつたものと思ふ。

何から何まで全て自分達でやらなければならぬ。勿論自治寮であるが、おばさんだけでは燃料までではどうにもならない。給食の担当だつた富田君初め皆がまき割りや代わる代わるやつていたのを不思議と鮮やかに思い出す。

8月に入つて有為会の総会と思つが上杉神社の境内の中にあつた臨泉閣で行われた。中央に旧上杉伯爵、その隣に相田さん少し下がつて宇佐美さんが座り総会議事の進行を勤めていた。当時は戦後間もなく千代田銀行の役員だつたようである。終つて座談に入つたら、一緒に行つた連中が御礼を言えと頻りに言つので止むなく挨拶した。

その時に君たちは我が儘だぞうでないかという注意を受けた。どうも学部の連中人達が同居しているので友人が来ると試験のときはどうにもならない。止むなく1部屋を娯楽室にしたことによつてである。勿論三原支部長に報告了解を得ていることを答えた。その時

“君は80万を出しているんだよ”との話があつた。23年の80万であるからかなりの額だなと思つた。困ることを更に迫つたら20万を出すと云う答を買つて(娯楽室を)食堂の東側に作つて楽になつた筈である。

次いで2回目の総会だつたか宇佐美さんに再びお願いすることになった。実は折角の案も屋根が木端屋根のまま、トタン張りされてない。早晩雨漏りの恐れがあるので出来るだけ早くやつて貰いたい。当時青木ホテルに泊まつていることを知っていたので、1度位寮を見に来て欲しいと言つたら私が卒業後さちんとなつたらしい。

秋になると芋煮会やら、大学内の他の寮との野球など皆と夢中になつたことも記憶の中にある。3月に入ると卒業コンパをすることになり案内すると三原支部長、黒金国税局長、更に高橋里美学長が御出で頂いたのを米沢だからかなと感銘したのを思い出す。

以上選挙式の寮の玄関前に並んだ写真から当時のことを書き記した。(瀨川医院院長・本部評議員・元支部長・元仙台興譲館長)

(注)選挙式 上杉神社選挙式といい、故郷の上杉神社に向かって感謝の気持ちをこめて拜む儀式で、寮で当時行われていた。)

戦前の仙台興譲館寮の写真

仙台興譲館寮は大正3年(1914年)4月に角五郎町に開設され、終戦直前の昭和20年(1945年)仙台空襲で全焼した。この2枚の写真は戦前、たぶん大正時代の寮の全景と附属館長宅である。寮にはテニスコートが設けられほどの広い敷地があつた。昭和23年には再建されているが、その時は敷地の半分を西松建設に売却し、その費用でもつて寮が建てられた。(丁) 写真は下城会長提供



宅長館属附館讓典臺仙



景全館讓典臺仙

新入会員紹介

(平成20年4月～9月) (敬称略)
 宇山裕人(興譲館H18卒 東北大学法学部在学中 現在専長)

鹿俣純夫(興譲館S32卒 新潟ITアドバンス代表 中條支部長義弟)

齋藤 勲(米工OB 内外テクノス部長)

島貫寿雄(新入寮生保証人 飯豊町)

島貫洋平(準会員 長井H20卒 東北大学文学部在学中 寮生)

鈴木治雄(興譲館S35卒 倉生OB。二本松在住 テクノメタル代表取締役)

山岸 瑛(興譲館H14卒 倉生OB。東北大学大学院H20卒 東京電力)

浮きよのたび3 (米沢有為会生み

の親 伊東忠太氏の日記) その2

伊東忠太ら学生6名が発起人となり明治22年11月23日(神嘗祭)有為会が結成されたいきさつは、有為会誌創立100周年及び110周年特集号(松野良寅氏記)に詳しい。今回連載する日記は翌23年の元旦から、1月11日欧遊館での米沢大親睦会で忠太が同士加入要請演説をぶった日迄の分である。

当時忠太氏らは空橋時代と自称した合宿状共同生活を送り切磋琢磨していた。

正月二日(木) 飲

午前ハ内村良蔵先生ヲ訪ヒ例ノ諧謔ヲ聞キテ
 聞キテ思ハズ興ヲ催シ夕飯ノ馳走ヲ受ケニ時
 同宅ヲ辞シ数軒回礼ノ後 山岡?松ト先ニ
 「レ・マン」ヲ訪フニ不在ナリ依テ山岡ヲ訪ヒ
 酒ノ馳走ヲ受ク 山岡ハ「ハンドオルガン」
 ノ名人ナリ 同氏ノ妹ハ妙齡三五ニシテ姿色
 ハ絶佳トハ行カズトモ十分ナルガ琴ニ巧ナリ
 兄妹合奏ニテ六段ノ曲ヲシラベタル中々ニ
 愉快ナルコトナリキ 日暮 田中ヲ訪ヒシニ
 本堂、梅原、松本ナド云フ者来リ合セテ大酒
 宴トナリ九時半頃宴終リ家ニ歸リテ寝ニ就ク

内村良蔵「コレカラ法律ナンドヤツタツテ
 オマンガ(マ)ガ食ヘナイヨ
 イマニ法學士ノ車夫ガ出来ルダロ。」

伊東祐彦「ナル程」
 伊東忠太「ナル程」

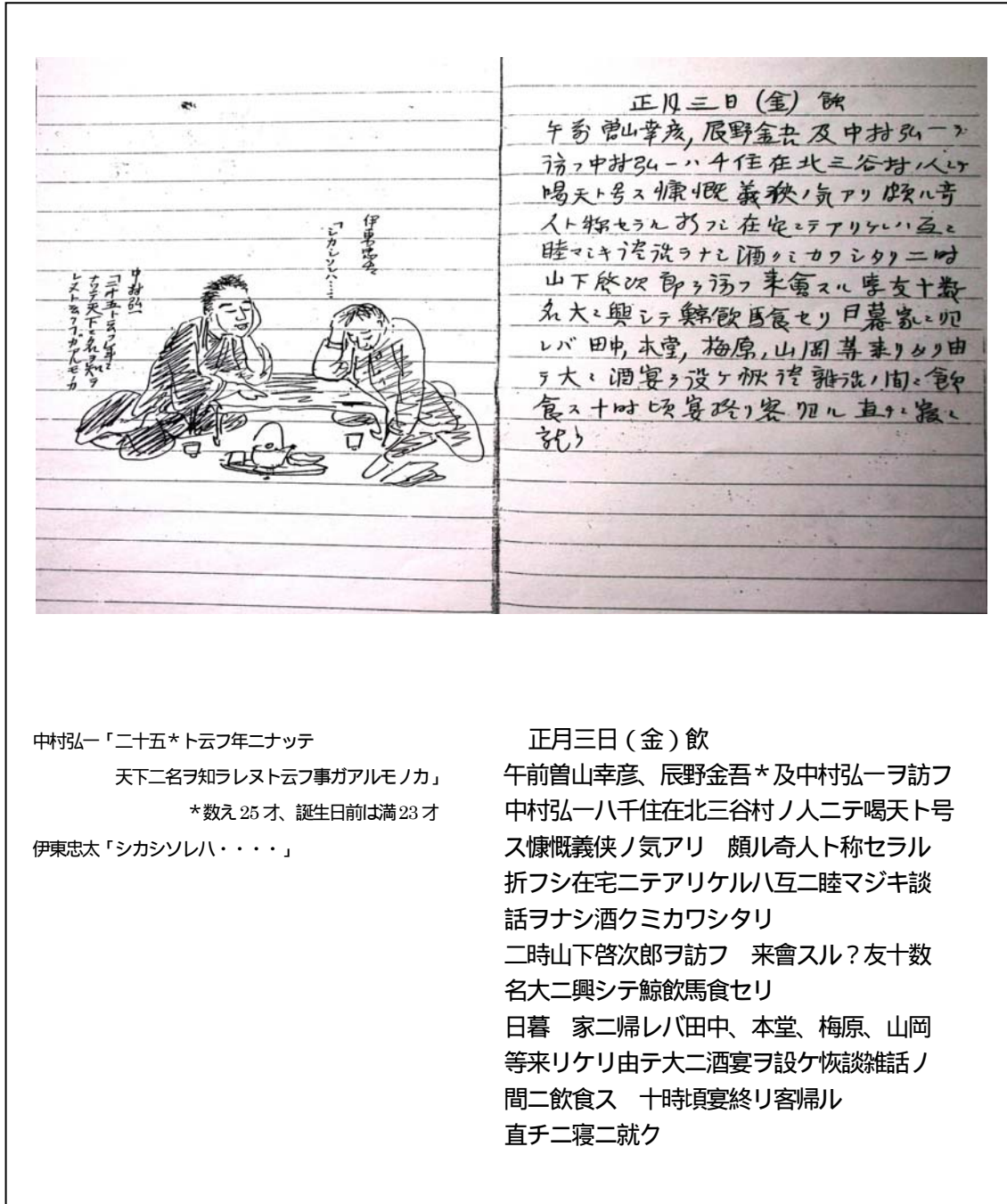
「浮きよのたび」の日記は明治22年(明治26年)における東京帝國大学工学部造家学科在籍時の日記。市販の横罫ノート17冊に鉛筆や万年筆を

用いて、日々の動静や言葉や交わした相手や内容について、挿絵などと共に刻銘に書き込まれている。若き日の伊東氏が建築に対する思潮を形成させて

いく過程が見て取れるといわれる。この日記の「コピ」は「建築博物館」に展示されている伊東忠太氏の日記を本会員の建築家御供政敏氏が許可を得

てコピーをいただいたものである。
(以上 注釈下)

日記本文下段活字文作製 (M)



中村弘一「二十五*ト云フ年ニナツテ
 天下二名ヲ知ラレスト云フ事ガアルモノカ」
 *数え25才、誕生日前は満23才
 伊東忠太「シカシソレハ・・・」

正月三日(金) 飲
 午前曾山幸彦、辰野金吾*及中村弘一ヲ訪フ
 中村弘一八千住在北三谷村ノ人ニテ喝天ト号
 ス慷慨義侠ノ気アリ 頗ル奇人ト称セラル
 折フシ在宅ニテアリケルハ互ニ睦マジキ談
 話ヲナシ酒クミカワシタリ
 二時山下啓次郎ヲ訪フ 来會スル? 友十数
 名大二興シテ鯨飲馬食セリ
 日暮 家ニ帰レバ田中、本堂、梅原、山岡
 等来リケリ由テ大二酒宴ヲ設ケ恢談雜話ノ
 間ニ飲食ス 十時頃宴終リ客帰ル
 直チニ寝ニ就ク

仙台支部年間行事予定

10月25日(土)26日(日)
寄宿舎OB会
(会場：赤湯温泉)

11月又は12月 置賜園人会

12月13日(土)

5時半より 忘年会
(会場：仙台風議館/寮生会主催)

1月24日(土)

5時半より 新年会
(会場：未定/寮生会主催)

2月28日(土)

12時半より卒業生を送る会
(館長自宅/館長主催)

3月21日 新入寮生面接

(会場：仙台風議館)

編集後記 芋煮会の日(に)第2号発刊

第3号は2月に発行予定です。是非
 原稿をお寄せ下さい。(T)
 編修子

編集長 滝口 政彦
 発行世話人 御供 政敏